



## “いい子”という言葉を多く使っているようなら…



中学生の娘さんをお持ちのお母さんが、ある日ポツリとこうこぼしたそうです。

「小さい頃は… 何でも私の言うことを聞いてくれて “いい子” だったのに…」

中学に入つてから服装が派手になつたので注意をすると、「うるさいな！」  
と反抗されショックを受けたと、そのお母さんは言ったそうです。

小さい頃から「何でも言うことを聞いていい子だね」とほめられ続けると、  
子どもはもっとほめられたくて “いい子” を演じてしまうこともあるそう  
です。

そして、いつの間にか“親の顔色”や“気持ち”を先読みして、親を喜ばせる行動をするクセ  
がついてしまうのだとか。

つまり、子どもなりに親の期待に応えたいと思うのでしょう。

しかし、子どもが大きくなるにつれ自主性がどんどん育つて  
くれば、親にほめられるより自分の意見を主張したくなるのが当たり前。



これが“成長”ではないでしょうか。

なのに、親がいつまでも“いい子”を子どもに押し付けていると、親に対する“反抗心”ばかりが強くなってしまうのだとか。

反面、親の望みを叶えられないことに“罪悪感”も持ってしまい、「もう…、どうしたらいいの？」  
といった心の葛藤を起こして、余計に反発してしまう場合もあるそうです。

誰だって思春期のころは、親に対する反抗や心の葛藤はありませんでしたか？

もし、無意識にお子様に対して“いい子”という言葉を多く使っているようなら、ご自身の思  
春期時代と照らし合わせてみて、少し意識して減らしてみてはいかがでしょうか？